

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第6回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成28年10月21日(金) 午後2時00分～午後4時00分
- 2 開催場所 生駒市役所 4階大会議室
- 3 参加者 相川氏 有山氏 石丸氏 井上氏(副座長) 桂氏(座長) 上武氏 坂本氏 田中氏
樽井氏 中世古氏 中村氏 平沢氏 安田氏(五十音順)

(事務局) 平井地域活力創生部長 岡田経済振興課長 巽経済振興課長補佐
高橋農林係長 水澤企業支援係長 長田農林係員

- 4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)平成28年度の取り組みについて
・特産品化事業
・地元飲食店と農家との連携促進事業
(2)第35回農業祭出店について
(3)その他

6 審議内容

- (1)平成28年度の取り組みについて

(参加者に考えを記入してもらい、まとめたものをホワイトボードに記載)

座長 作物の提案としては、ゆず、レモン、南国フルーツ、ブルーベリー、ポポー、アーモンド、蜜がとれるもの、生姜、特産品である竹、とうきび、パクチー、薬草、花、いも、黒大豆、葉物野菜、大根、かぶら、つるむらさき、おかわかめ、わらび、ぜんまい、あけびが挙げられている。

それと、その作物を使ってどういうことができるのかという意見として、子どもへのレモン苗木植栽事業・市内農産物を使ったスイーツコンテスト・市内特産品めぐりマップ作成・常設直売所の設置・市内農産物を使った緑ちょうちんの認定・市内農産物を使った料理のバル・メールを使った畑での直売祭・畑の青空レストラン祭り・観光農園・公園を作り、組合を作る・観光農園・公園でアイスクリームを販売したり、新規就農者の研修施設とする・子ども市民果樹園・練習農地・スイーツ店にしたい果物を募集・希少種農園、七色 たった揚げに使える色の濃い野菜の栽培・ひとつの景色を作れるほどの花植えが挙げられている。

先ほど、花としてひまわりが挙げたが景観形成に役立つものがあるのが良いと思う。何か質問や意見はないか。

参加者 緑ちょうちんの認定とは何か。

座長 このお店に行ったら、生駒産の野菜だとか黒大豆が食べられるということを市役所などが申告して、お客さまに分かってもらうために軒先に緑色のちょうちんを掲げることである。

事務局 ポポーは日持ちはしないのか。栄養が豊富なため、その面で売り込んでいけたら良いと思う。

参加者 実がとれるまでにどれくらいかかるか。

副座長 日持ちはあまりしない。4年くらいしたら実がなるようになったと思う。5m以上の木になっている。

座長 作物名として挙げてくれた農産物は生駒で採れるものなのか。

副座長 マンゴーは温室がないと難しいのではないか。

- 座長 竹は遊休農地に植えるのではなく、手入れして活用しようということである。
- 副座長 しょうがは無農薬で作ることができるし、柑橘類も薬を使用しなくても作ることができるので良いと思う。
- 座長 果樹を作ったとして、猿の被害は大丈夫なのか。
- 副座長 最近はあまり見かけなくなっている。
- 座長 猿を呼び寄せないということでは、ゆずが良いのではないか。また、作った農作物を売れる場所がほしい。
- 参加者 パクチーは人気があり、寒さにも強い。サラダなどに使えて良いと思う。
- 副座長 おかわかめも栄養があって良い。栽培が楽で良いが収穫が少し大変である。
- 参加者 高山町では、黒大豆の枝豆を売っていたり、さつまいも掘り体験や黒大豆の収穫体験を行っている農家の方もいて、大阪から人が来ている。みんなが集まってできるような場所があれば良いのではないか。
- 副座長 新しい作物を作った時は、食べ方も教える必要があると思う。
- 参加者 誰が面倒を見るのかと思う。
- 参加者 第2工区を開発する際に観光公園を作って、黒大豆やレモンなどの味覚狩りができるようにしたら良い。誰がするかについては、担当は部会ごとに持つと良いと思う。練習農地もそこにを作って、駐車場も整備したら、他府県からも来てもらえる。
- 座長 直売所も併設したら良いのではないか。
- 参加者 子どもが味覚狩りをできる食育の場にもなれば良いと思う。
- 事務局 今回出していたいただいた意見を次回分かりやすく分類分けしたものを作るので、また議論してほしい。地元飲食店と農家との連携促進事業について、アンケート作成は業者の意見をもらって行おうと考えている。

(2) 第35回農業祭出店について

- 事務局 今年には米のポン菓子と新規就農者の野菜を販売する。試食は状況を見て行うかを決める。

(3) その他

- 座長 何かご意見がある方はおられるか。
- 参加者 農業委員会に農地を探す相談をしたところ、農地中間管理機構の代わりになるものを現在作っているところで、また稼働していないため、農業委員さんに聞いてほしいと言われた。また、推進委員については来年の話であると言われた。農地を見つけることに苦勞を感じている。
生駒市の農家の内、実際販売をして売上げを上げている農家はわずかで、担い手であったり積極的に販売をしている農業者の意見を上げてほしい。また、売り場の確保をしてほしい。
- 座長 今後の取組について、農業委員会事務局から説明してほしい。
- 事務局 法律が施行され、農業委員会の組織が大きく変わり、農業委員と推進委員から成る新たな構成になる。転用の許可などを審議する定例会は農業委員が、現場のパトロールなどの活動は推進委員にしてもらうこととなり、業務が明確に分かれる。任期の関係もあり、来年の7月20日から新しい農業委員会の体制になる。

農地中間管理機構は農地を斡旋する業務をしているが、生駒市は農業振興地域がないため、機構を利用することはできない。そのため、市独自の農地バンクを作ってマッチングを行っていく予定である。

- 座長 制度が大きく変わり、推進委員は農業をやりたい人に農地を斡旋することが役割であるため、そういう方向で農業委員会も動いてほしい。
ミニ産直や、農業生産法人化推進事業については、今後の課題としていきたい。
意見は、行政が関わってスーパーマーケットに場所を作るように交渉してほしいということか。
- 参加者 今は中央卸売市場を通して、スーパーマーケットに農産物を卸している。市の事業として行ってほしい。他の担い手の方が来たときにも、販売場所があると良いと思う。
- 参加者 常に売れる販売場所があるということは、次に就農を始める人を応援できる。
- 参加者 行政が動くと、税金を各個人に使うことになるのではないかと思う。他の市町村では農協が動いているところが多いように思う。
- 座長 民民の事業に行政が介入することはあまり良くない。行政が主体になるのではなく、任意組織として、地域の農業を考える場を設け、そこにスーパーの方に来てもらうと良いのではないか。
- 参加者 農産物のマッチングの場を作ることが良いと思う。
- 事務局 行政として、特定の方だけを支援することは難しいが、当事者も含めて、消費者や飲食店などの事業者と話し合うことができるように行政がベースを用意し、協働のまちづくりを進めたい。
- 座長 地元の飲食店と農家の連携についても、行政が主体となることはできないが、システム作りをして進めていくのが良いと思う。